

復興を進める地区の事例 まとめ

糸魚川市では、過去にも昭和3年、7年、29年に大火を経験しており、昭和7年12月の大火灾は、平成28年12月の被災とほぼ同じエリアであり、北西の強風にあおられ380棟が被害を受けました。この大火後に建てられた家屋は現在の法律の基準に適合しない耐火性能の低い建築物であり。それらの建築物は今回の被災時にも多く残されていました。そのことも被害が大きくなつた一つの要因と考えられます。

このような火災に対応するために耐火性のある建物への建替えや改修、延焼を抑制する建物や道路空間の整備、緊急自動車が速やかに到着、活動ができる道路拡幅などを行うことを「防災まちづくり」と言います。(右図の縦の矢印)

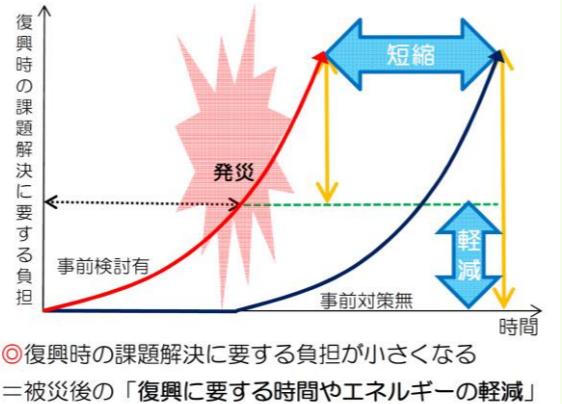
また、万が一災害にあっても、避難活動や避難所運営、復興の計画・体制づくり、住民の合意形成などを事前に準備しておくことが、復興にかかる時間の短縮となります。(右図の横向きの矢印)

荒川五・六丁目地区においても、大切な考え方です。

事前復興まちづくりの効果

⇒ 事前復興に取り組んでいると…

事前に復興に関する課題解決を進めているほど、被災後の負担は小さくなる



東京都事前復興マニュアルより

区からのお知らせ

不燃化特区支援制度を令和7年度まで延長します！

老朽化した建物を何とかしたい！とお考えの方

是非この機会にご利用ください！

解体の費用を全額助成します！

建替えの一部費用を助成します！

専門家を無料で派遣します！

助成・派遣には条件がございます。詳細については下記お問い合わせ先までご連絡ください。

荒川区防災街づくり推進課 電話 03-3802-3111（代表）

お問い合わせ先

荒川区 防災都市づくり部 防災街づくり推進課 防災街づくり係 (区役所北庁舎2階⑭窓口)
電話：03-3802-3111（内線2834）／FAX：03-3802-4104
担当：青天目（ナバタメ）



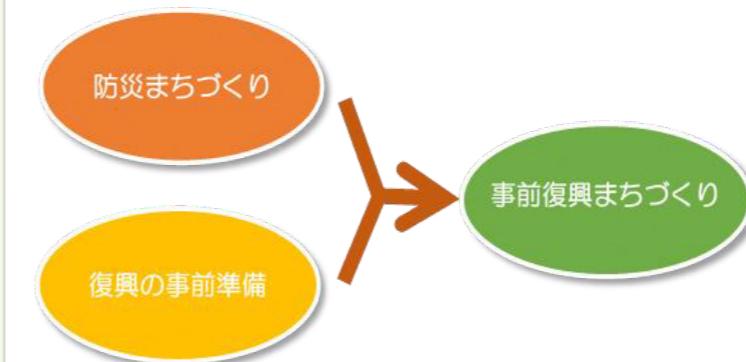
2020年度の取り組みについて

荒川五・六丁目地区防災まちづくりの会は、「安全で安心して住み続けられる災害に強いまち」を目指し、防災街づくり事業の促進や防災性の向上を図る自主的な活動を進めております。令和元年度には、「協議会の活性化」を掲げ、防災まちづくりに主体的に取り組んでいる他地区的団体と、テレビ会議にて意見交換を行い、見識を深めました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、活動を控えたことから、まちづくり新聞の発行は本号のみとなります。

本号では、地区において災害が起きる前から災害時の準備をする「事前復興まちづくり」を紹介します。復興に向け事前に準備しておくべきことを検討するため、復興を進めている地区的参考事例を、p 2～3に掲載しています。

事前復興まちづくりとは



災害による被害を最低限に抑える「防災まちづくり」と災害が起きる前に復興計画や復興体制について準備しておく「復興の事前準備」を合わせて「事前復興まちづくり」と言います。

明朗荘を解体し、跡地をひろばに仮整備

令和2年1、2月に明朗荘を解体しました。

さらに跡地につきましては土地権利者のご協力により、ひろばとして仮整備しております。

ひろばとして仮整備した明朗荘跡地



復興を進める地区の事例

復興をすすめる
地区の事例
**糸魚川市
駅北地区**

地区のご紹介

糸魚川市の中心市街地で発生した大規模火災で、冬の乾燥した空気が流れ込み、台風並みの強風が吹きつける中で約30時間にわたり延焼し、大きな被害をもたらしました。

発生	平成28年12月22日(木)午前10時20分頃 (翌日午後4時30分鎮火)
焼損棟数	147棟(全焼120棟、半焼5棟、部分焼22棟)
焼失面積	約40,000m ²
被災者	145世帯、260人、56事業所
負傷者	17人(一般2人、消防団員15人)(死者なし)

糸魚川市ホームページより

被災した糸魚川市駅北地域



糸魚川市ホームページより

瓦礫になった家屋



火災が大規模になった原因は?

- ①同じエリアでは、過去(昭和7年)にも大火があったが、その後に再建されるなどした古い木造建築物が軒を連ねるように多く残っていた。
- ②幅員4mに満たない狭い道路に加え、公園などの公共空地がなかった。
- ③中心市街地としての活力低下に加え、高齢化や人口減少により空き店舗や空き家が散在していた。

復興に向けた動きは?

- 大火発生から8か月後(平成29年8月)に「糸魚川市駅北復興まちづくり計画」を策定
- 市内関係団体から選出された代表者(青年会議所、社協、区長、消防団など)と有識者を加えた「計画検討委員会」を組織
- 「計画検討委員会」は、「復興まちづくり計画」を策定し、市長に提言。



「復興計画」を、被災後8か月の短期間でつくりました。
迅速な対応でした。

「糸魚川駅北地区」と「荒川五・六丁目地区」の比較

	被災前のまちのようす	大火による被害	被災後の対応	復興計画の内容	復興の進捗と成果は
糸魚川市駅北地区	木造建物が密集、道路が狭い、公園・広場が少ない。	建て詰まりでほとんどの建物が燃えてしまった。	被災後8か月の短期間で復興計画をつくった。	道路拡幅、公園・広場整備などが計画化されている。	復興事業が順調に進んでいる。
荒川五・六丁目地区	木造建物が密集、道路が狭い、公園・広場が少ない。	過去の糸魚川市駅北地区と同規模の被害を受ける可能性がある。	大規模火災を想定し、迅速に復興計画が策定できる準備をする必要がある。	防災街づくりとして、公園・道路拡幅整備が計画、整備されている。	復興事業の実施を想定した準用をする必要がある。

- まちの将来像をどのように描いているのでしょうか?
- どのようにして復興まちづくりを実現しようとしているのでしょうか?
- いま、どこまで復興しているのでしょうか?
- どうすれば早く復興できるのでしょうか?

私たちが事前に準備するとなったら何ができるか、考えてみましょう。